

## VI. 看護学生が臨地実習でできる看護技術(病院調査)

### 1. 病院調査の目的

卒業時に習得する看護技術についてデルファイ調査で明らかになった技術について、看護教育の中で習得するには臨床実習の場は重要な場である。しかし、対象となる患者がいるか、資格のない学生に実施させることができる技術なのかによっても体験の可能性は異なる。そこで本研究では臨地実習の場である病棟で技術項目をどの程度実施できる可能性があるか、実施できないとすればその理由を明らかにすることを目的に調査を実施した。

### 2. 調査方法

1) 対象:400床以上の病院で看護基礎教育課程の臨地実習を実施している病棟の師長または臨床指導者。

2) 調査期間:平成18年2月3日から3月17日

#### 3) データ収集方法

##### (1)施設への依頼

病院要覧 2003年-2004年版(医療施設政策研究会編,2003)から400床以上の病院から(精神科、療養型の病院を除く)層化無作為抽出により398施設を選択した。選択した施設の中で看護教育課程の臨地実習を実施している施設に回答を求めた。

##### (2)病棟への依頼

生活行動援助技術および診療に関わる援助技術の実施状況を把握するために、看護教育課程の臨地実習をしている成人・老年看護実習

を受け入れている病棟、小児看護実習を受け入れている病棟、母性看護実習を受け入れている病棟に限定して調査を依頼することにした。本調査では基礎看護実習は日常生活援助が中心で診療に関わる援助が入らないため除いた。また、手技的な看護技術の実施が少ないと考えられる精神科病棟も除いた。398施設の看護部長に調査協力依頼文と各施設に看護基礎教育課程の実習を受け入れている病棟の成人・老年系の急性期(外科)実習および慢性期(内科)実習を受け入れている病棟、小児実習、母性実習を受け入れている病棟にそれぞれ1通ずつ配布するよう4通ずつの調査紙を送付した。母性、小児実習の受入れがない場合には成人・老年系の病棟に配布するよう依頼した。

調査紙は無記名で回答後返信用封筒に入れて直接投函するよう求めた。

#### 4) 倫理的配慮

調査対象に対して、研究の目的、方法、研究への参加は自由意思であり回答内容及び結果は研究の目的以外では使用しないことについて書面で説明し、研究への参加を依頼した。郵送法による質問調査であるため、返信をもって研究参加への同意が得られたとみなした。

#### 5) 調査紙

調査項目は、病院所在地の県、病院の病床数、病棟の病床数、病棟の診療科、病棟の平日の日勤帯での看護師数、実習を受け入れている教育課程、受け入れている実習の種類、日勤帯の臨床指導者数、1日の実習の最大受入れ人数、受け入れている実習の形態、受け持ち患者以外に看護技術を実施するか否かを「背景」として聞き、さらに技術項目ごとに実施可能性を調査した。

看護技術項目は、デルファイ調査 2 回目の結果を受けて作成された学生に対する調査紙の 110 項目看護技術のうち、実習中に学生が体験する技術についての 86 項目に絞った。削除した項目は、アセスメントについて問う項目、知識としてわかるかを問う項目、学生が実施できる可能性が明らかに少ない項目(人工呼吸、閉鎖式心マッサージ、除細動、止血など)、安楽を促進する援助や患者の精神的安寧を保つ援助などである。

86 項目の看護技術項目の内訳は、<1>環境調整技術 1 項目<2>食事の援助技術 5 項目<3>排泄援助技術 9 項目<4>活動・休息援助技術 10 項目<5>清潔・衣生活援助技術 9 項目、<6>呼吸・循環を整える技術 10 項目<7>創傷管理技術 4 項目<8>与薬の技術 18 項目<9>救命救急処置技術 1 項目<10>症状・生体機能管理技術 10 項目<11>感染予防の技術 5 項目<12>安全管理の技術 4 項目である。

設問は「2 週間前から 5 人の学生の実習を受け入れたことを想定してお答え下さい。あなたの病棟ではこの 2 週間の実習で、5 人中何人位の学生が表に挙げたそれぞれの看護技術を実施できる可能性があったと思われますか」とした。

学生が各技術を実施できる割合は、実施可能な人数を問うた。4 段階を設定し 8 割以上の学生が実施できるものは「5 人中 4 人以上が可能」、半数前後実施できるは「2～3 人が可能」、2 割程度は「1 人が可能」、実施が困難な項目は「実施できない」として 4 段階のいずれかを選択とした。

実施できない理由を明らかにするために、『1 人が可能』『実施できない』を選択した場合は実施できない理由を、『対象となる患者がない』『患者の安全が脅かされる内容なので学生に実

施させられない』『患者・家族の承諾が得られにくい』『学生を指導できる体制が十分ではない』『臨床が学生に許可していない』『その他』の中から複数回答での選択とした。また、『その他』の理由を書く欄を設けた。

## 6) データ分析方法

数値データは記述統計量および度数分布を算出し、統計量は平均、最小値、最大値、有効回答数に対する回答の割合(%)で示した。

## 3. 結果

### 1) 調査病棟の状況

#### (1) データ回収率

調査紙の配布病院は 398 施設に 4 通ずつ計 1590 通発送し、回収数 724 通(回収率 45.5%)であり、うち有効回答数 701 通(有効回答率 96.8%) あった。都道府県別の回答数は表に示すとおりであり、ほとんどの都道府県からの回答が得られた(表 VI-1)。

#### (2) 協力を得られた病院の状況

400～499 床の施設 (33.0%)、500～599 床の施設 (25.7%)、600～699 床の施設 (17.5%)、700 床以上の施設 (22.5%) であった(図 VI-1)。

#### (3) 病床数

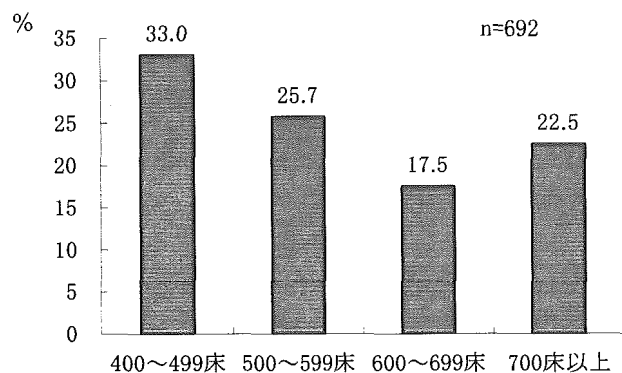
病床数の平均は 45.8 床、最大 95 床、最小 7 床であった。

#### (4) 病棟の診療科

病棟の診療科は内科 188 件 (23.8%)、外科 155 件 (22.1%)、小児科 155 件 (22.1%)、産婦人科 171 件 (22.4%) であった(表 VI-2)。表 VI-2 に示す診療科以外のその他の診療科は眼科、耳鼻科、口腔外科、診療内科、リハビリテーション科、放

表VI-1 病院調査 都道府県別の回収数

n=691								単位:件	
1)北海道	32	2)青森県	10	3)岩手県	1	4)宮城県	12	5)秋田県	13
6)山形県	13	7)福島県	16	8)茨城県	11	9)栃木県	16	10)群馬県	15
11)埼玉県	14	12)千葉県	27	13)東京都	56	14)神奈川県	35	15)新潟県	12
16)富山県	13	17)石川県	8	18)福井県	11	19)山梨県	5	20)長野県	10
21)岐阜県	10	22)静岡県	28	23)愛知県	51	24)三重県	7	25)滋賀県	14
26)京都府	15	27)大阪府	58	28)兵庫県	23	29)奈良県	2	30)和歌山県	4
31)鳥取県	5	32)島根県	3	33)岡山県	14	34)広島県	13	35)山口県	15
36)徳島県	4	37)香川県	8	38)愛媛県	13	39)高知県	4	40)福岡県	33
41)佐賀県	0	42)長崎県	4	43)熊本県	15	44)大分県	4	45)宮崎県	4
46)鹿児島県	7	47)沖縄県	3						



図VI-1 病院調査 協力を得られた病院の病床数

表VI-2 病院調査 病棟の診療科(複数回答あり) n=701

診療科	件	%
内科	188	26.8
外科	155	22.1
循環器科	48	6.8
呼吸器科	60	8.6
消化器科	82	11.7
整形外科	66	9.4
脳神経科外科	50	7.1
皮膚泌尿器科	62	8.8
小児科	155	22.1
産婦人科	171	24.4
その他	194	27.7

射線科、形成外科、心臓血管外科、血液内科、NICU、混合病棟など多岐にわたっていた。病棟における診療科の平均は 1.8、単科 368(52.8%)、2科(27.1%)、3科以上 76(10.9%)であった。

#### (5)日勤帯の看護師の人数

日勤帯の病棟の師長を含む看護師数の平均は 9.4 人、最大 20 人、最小 4 人であった。

#### (6)実習で受け入れている教育課程

看護専門学校が 567 件(80.8%)と最も多く、次いで大学の 231 件(33.0%)、短大 110 件(15.7%)であった(図VI-2)。受け入れ教育課程数の平均は 1.44(表VI-3)、1 課程のみ受け入れているのは 63.8%、2 課程は 30.5%、病棟で受け入れている最大教育課程数は 5 課程であった(表VI-4)。

#### (7)受け入れている実習の種類

成人・老年実習の急性期(外科)、慢性期(内科)、小児、母性の4つについて調査したところ、成人・老年急性期 219(31.2%)、慢性期 230(32.8%)、小児 140(20.0%)、母性 157(22.4%)であった(表VI-5)。複数の実習を受け入れている病棟が 33 病棟あった。

#### (8)臨床指導者の人数

日勤帯での臨床指導者の人数は平均 1.15 人、最大 5 人、最小 0 人であった。

#### (9)1 日の最大実習生受け入れ可能人数

病棟の実習学生数について、最大何人の受け入れが可能かを問うたところ、平均 6.85 人、最大 18 人、最小 2 人であった。人数が多かったのは母性病棟であった。

#### (10)受け入れている実習の形態

一人の患者を受け持つ実習形態が最も多く 595 件(84.8%)、複数の患者を受け持つのは 5 件(0.7%)であり、少なかった。一人の患者を受け持つときと複数のときがあるのは 98 件(14.0%)であった。

#### (11)看護技術を受け持ち患者に実施するか否か

実習中に学生が看護技術を提供できることについては、受け持ち患者の看護技術を実施するのは 487 件(69.5%)、受け持ち患者以外の看護技術も実施するのは 214 件(30.5%)であった。

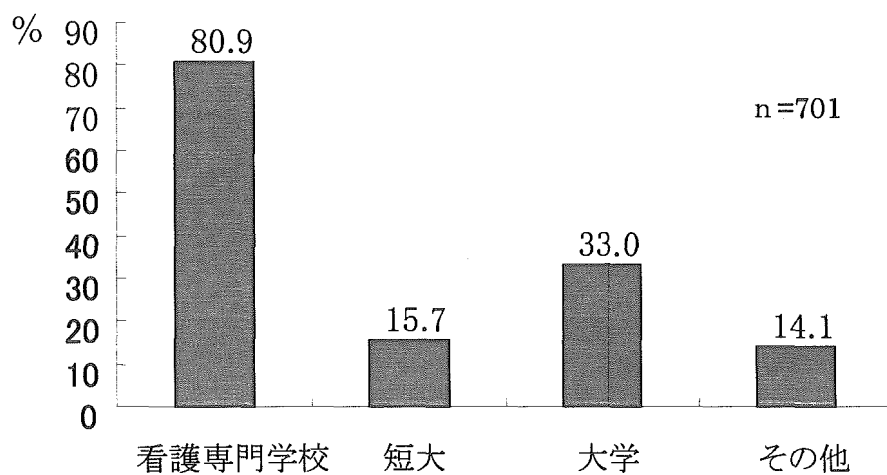
### 2)看護技術の実施可能性

成人・老年、小児、母性の実習を重複して受け入れている病棟を除き、成人・老年実習(急性期、慢性期)のみを受け入れている病棟 407(58.1%)、小児のみを受け入れている病棟 116(16.5%)、母性のみを受け入れている病棟 134(19.1%)に分けて分析した。実習毎に技術項目を 5 人の学生が実習したと仮定したときの学生が実施可能な人数の割合と、『1人が実施可能』『実施できない』場合の理由を実数で示した(表VI-6)。

また、成人・老年実習の急性期(外科)のみを受け入れている病棟 183、慢性期(内科)のみを受け入れている病棟 198 の看護技術の実施可能性を比較した。

#### (1)成人・老年実習、小児実習、母性実習を受け入れている病棟の看護技術の実施可能性

成人・老年実習、小児実習、母性実習の体験可能性と実施できない理由を並べて表示した(表VI-6)。技術項目として抽出したもので「乳幼児の沐浴」は母性実習で体験可能性が高い技術項目であった。成人・老年実習、小児実習、母性実習でいずれも『4人以上が可能』が50%以



図VI-2 病院調査 実習で受け入れている教育課程

表VI-3 病院調査 病棟における実習受入れ課程数平均 n=701

平均値	1.4
標準偏差	0.64
最大値	5

表VI-4 病院調査 病棟で受け入れている課程数 n=701

課程別	病棟数	%
1 課程	440	62.8
2 課程	214	30.5
3 課程	41	5.8
4 課程	3	0.4
5 課程	1	0.1

表VI-5 病院調査 受け入れている実習 n=701

実習	件	%
急性期・外科系	219	31.2
慢性期・内科系	230	32.8
小児	140	20.0
母性	157	22.4

表VI-6 病院調査 技術項目毎の成人・老年、小児、母性の比較

看護技術項目	成人・老年実習 n=407 小児実習 n=116 母性実習 n=134	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由									
		4人以上が可能	2~3人が可能	1人が可能	実施できない	1人が可能な合計	ない	対象となる患者がい	施さなければならないので学生に実施できない	患者の安全が脅かされ	得られにくい	患者・家族の承諾が	制が十分ではない	学生を指導できない	ていない	臨床が学生に許可し
		%	%	%	%	%	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件
<b>&lt;1&gt;環境調整技術</b>																
1 臥床患者のリネン交換	成人・老年実習	71.3	18.2	6.6	2.9	9.5	19	6	0	6	2	9				
	小児実習	47.4	20.7	12.1	16.4	28.5	24	2	1	4	0	2				
	母性実習	44.0	12.7	9.7	31.3	41.0	48	3	1	2	1	6				
<b>&lt;2&gt;食事の援助技術</b>																
2 患者の状態に合わせた食事介助	成人・老年実習	32.9	39.1	16.7	10.1	26.8	82	7	2	6	1	13				
	小児実習	27.6	24.1	19.8	25.9	45.7	40	6	7	5	0	6				
	母性実習	10.4	8.2	14.9	63.4	78.3	101	2	0	2	0	4				
3 患者の疾患に応じた食事内容の指導	成人・老年実習	27.3	39.1	18.2	13	31.2	73	9	2	17	7	13				
	小児実習	12.9	25.0	29.3	30.2	59.5	49	3	1	7	7	5				
	母性実習	17.2	29.1	14.9	33.6	48.5	52	2	1	8	2	9				
4 経鼻胃チューブの挿入・確認	成人・老年実習	6.4	10.8	15.5	64.6	80.1	131	91	19	25	109	59				
	小児実習	4.3	13.8	9.5	69.8	79.3	54	26	14	7	36	11				
	母性実習	0.0	0.0	2.2	94.8	97.0	122	4	2	1	10	5				
5 経管栄養法を受けている患者の観察	成人・老年実習	23.1	26.5	25.3	23.3	48.6	147	14	4	14	9	17				
	小児実習	14.7	22.4	19.8	41.4	61.2	58	6	6	4	5	6				
	母性実習	1.5	0.7	3.7	90.3	94.0	125	1	2	1	0	4				
6 患者への経鼻胃チューブからの流動食の注入	成人・老年実習	12.8	13.8	18.9	53.6	72.5	159	57	9	16	82	35				
	小児実習	7.8	14.7	14.7	62.1	76.8	58	16	8	5	25	6				
	母性実習	0.7	0.0	0.7	95.5	96.2	126	4	1	0	7	2				
<b>&lt;3&gt;排泄援助技術</b>																
7 患者に合わせた便器・尿器を選択した排泄援助	成人・老年実習	43.5	34.4	15	6.6	21.6	60	4	10	5	0	10				
	小児実習	21.6	27.6	23.3	27.6	50.9	49	2	3	1	1	5				
	母性実習	9.7	12.7	15.7	59.0	74.7	94	4	2	1	0	4				
8 ポータブルトイレでの排泄援助	成人・老年実習	37.6	38.1	17.4	6.6	24.0	71	7	6	2	0	16				
	小児実習	15.5	27.6	31.0	25.0	56.0	57	3	1	0	0	5				
	母性実習	11.9	14.2	11.9	59.7	71.6	89	4	1	1	1	4				
9 おむつ交換	成人・老年実習	49.1	30.0	13.3	7.1	20.4	56	5	4	5	2	12				
	小児実習	52.6	31.9	7.8	7.8	15.6	9	1	3	1	0	4				
	母性実習	41.0	10.4	9.0	38.1	47.1	60	0	0	0	0	2				
10 失禁をしている患者のケア	成人・老年実習	40.5	29.5	16.0	12.8	28.8	78	6	7	6	6	15				
	小児実習	17.2	19.8	10.3	48.3	58.6	58	3	1	1	1	4				
	母性実習	3.0	3.7	8.2	82.8	91.0	116	2	1	2	0	3				
11 摘便	成人・老年実習	4.4	9.6	17.9	67.3	85.2	148	88	35	22	113	27				
	小児実習	0.0	2.6	5.2	90.5	95.7	80	15	10	4	19	7				
	母性実習	0.7	1.5	3.0	93.3	96.3	116	4	4	0	15	5				
12 導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	成人・老年実習	5.4	7.4	15.2	71.5	86.7	90	116	47	21	155	38				
	小児実習	0.0	0.9	2.6	95.7	98.3	76	25	13	6	42	7				
	母性実習	3.7	7.5	11.2	76.1	87.3	67	15	10	2	35	11				
13 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の管理	成人・老年実習	41.0	32.9	15.7	9.1	24.8	45	15	4	8	18	12				
	小児実習	5.2	6.0	17.2	69.8	87.0	82	6	4	4	8	5				
	母性実習	12.7	23.9	22.4	38.8	61.2	63	2	0	3	6	8				
14 グリセリン浣腸	成人・老年実習	8.4	15.2	21.1	54.8	75.9	104	83	29	24	111	35				
	小児実習	3.4	6.0	26.7	62.1	88.8	52	22	10	4	29	8				
	母性実習	6.7	7.5	8.2	75.4	83.6	71	10	4	0	26	8				
15 ストーマ造設部の管理、パウチ交換	成人・老年実習	6.9	10.6	16.2	64.9	81.1	245	26	13	17	39	29				
	小児実習	0.9	0.9	6.0	89.7	95.7	102	8	3	4	11	2				
	母性実習	0.0	1.5	2.2	93.3	95.5	122	2	1	0	5	2				

表VI-6 病院調査 技術項目毎の成人・老年、小児、母性の比較 続き

	看護技術項目	成人・老年実習 n=407 小児実習 n=116 母性実習 n=134	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由					
			4人以上が可能 %	2~3人が可能 %	1人が可能 %	実施できない %	1人が可能と実施できないの合計 %	対象となる患者がない 件	患者の安全が脅かされ 実施できない 件	患者・家族の承諾が 得られない 件	制が十分ではない 件	学生を指導できる体 制が十分ではない 件	臨床が学生に許可し ていない 件
<4>活動・休息援助技術													
16	臥床患者の体位変換	成人・老年実習	61.2	26.5	9.8	1.7	11.5	32	5	0	1	0	4
		小児実習	15.5	21.6	22.4	38.8	61.2	57	5	3	2	2	4
		母性実習	17.2	19.4	14.2	47.8	62.0	78	0	0	0	0	3
17	ベッドから車椅子への移乗	成人・老年実習	54.8	33.7	7.6	2.7	10.3	22	11	0	2	2	5
		小児実習	14.7	25.0	25.9	34.5	60.4	57	4	2	3	2	3
		母性実習	21.6	24.6	19.4	32.8	52.2	60	4	0	3	1	3
18	車椅子移送	成人・老年実習	69.3	24.1	4.9	1.0	5.9	11	3	0	2	1	4
		小児実習	20.7	32.8	22.4	23.3	45.7	45	1	0	2	2	2
		母性実習	32.1	26.1	24.6	15.7	40.3	43	2	0	3	0	5
19	歩行・移動介助	成人・老年実習	64.9	27.0	6.1	1.2	7.3	17	4	0	3	0	2
		小児実習	26.7	35.3	14.7	22.4	37.1	34	2	0	2	0	1
		母性実習	30.6	26.9	19.4	22.4	41.8	47	2	0	1	0	5
20	廃用性症候群予防のための自動・他動運動	成人・老年実習	33.7	31.2	17.2	17.4	34.6	89	12	5	15	14	20
		小児実習	6.9	10.3	11.2	70.7	81.9	80	1	1	5	7	5
		母性実習	4.5	7.5	9.0	77.6	86.6	110	0	0	0	1	3
21	目的に応じた安静保持の援助	成人・老年実習	48.6	34.2	9.3	6.9	16.2	39	7	1	5	2	7
		小児実習	39.7	33.6	16.4	10.3	26.7	19	1	0	3	1	0
		母性実習	26.1	27.6	14.9	28.4	43.3	49	2	1	2	1	3
22	体動制限による苦痛の緩和	成人・老年実習	38.8	35.4	13.0	10.1	23.1	53	12	1	9	5	13
		小児実習	25.9	25.9	18.1	28.4	46.5	43	2	1	3	0	1
		母性実習	16.4	19.4	11.2	51.5	62.7	75	1	1	3	1	2
23	ベッドからストレッチャーへの移乗	成人・老年実習	45.5	26.5	16.0	11.5	27.5	73	16	1	4	4	14
		小児実習	15.5	28.4	22.4	32.8	55.2	51	5	0	2	2	2
		母性実習	14.9	20.1	14.2	49.3	63.5	74	3	1	2	0	7
24	ストレッチャーでの移送	成人・老年実習	46.7	24.1	15.7	12.0	27.7	70	11	1	6	7	17
		小児実習	19.8	32.8	17.2	29.3	46.5	44	2	0	1	3	4
		母性実習	20.9	22.4	14.2	39.6	53.8	64	3	0	1	0	4
25	関節可動域訓練	成人・老年実習	24.3	22.1	20.4	31.9	52.3	139	20	0	22	23	10
		小児実習	5.2	6.9	20.7	63.8	84.5	85	6	1	4	7	2
		母性実習	1.5	4.5	2.2	89.6	91.8	119	0	1	1	1	1
<5>清潔・衣生活援助技術													
26	入浴の介助	成人・老年実習	39.8	34.6	18.2	5.9	24.1	63	9	4	11	1	11
		小児実習	22.4	35.3	19.8	22.4	42.2	40	4	3	3	0	2
		母性実習	7.5	9.7	7.5	73.1	80.6	105	1	1	3	0	2
27	患者の状態に合わせた足浴・手浴	成人・老年実習	68.1	25.6	4.2	0.2	4.4	11	0	0	2	0	3
		小児実習	37.1	38.8	15.5	5.2	20.7	17	0	2	1	0	2
		母性実習	32.1	35.8	10.4	20.1	30.5	37	0	1	1	0	4
28	陰部の清潔保持	成人・老年実習	65.4	25.6	6.1	1.0	7.1	15	1	8	2	0	5
		小児実習	47.4	29.3	10.3	9.5	19.8	16	1	0	2	1	0
		母性実習	38.8	23.9	14.2	22.4	36.6	36	3	8	3	1	4
29	乳幼児の沐浴	成人・老年実習	1.2	1.2	1.5	89.4	90.9	352	2	1	3	4	7
		小児実習	26.7	31.9	19.8	16.4	36.2	24	6	5	2	7	5
		母性実習	74.6	14.9	1.5	7.5	9.0	6	3	0	0	3	2
30	臥床患者の清拭	成人・老年実習	67.3	22.9	7.1	0.7	7.8	14	5	1	4	1	6
		小児実習	35.3	32.8	8.6	18.1	26.7	22	1	2	1	0	2
		母性実習	32.1	32.1	17.2	17.2	34.4	42	0	0	1	0	2
31	臥床患者の洗髪	成人・老年実習	44.2	35.6	13.0	5.9	18.9	52	5	0	10	2	5
		小児実習	17.2	32.8	17.2	26.7	43.9	40	2	2	2	0	3
		母性実習	20.1	23.1	14.9	39.6	54.5	67	2	0	1	0	2

表VI-6 病院調査 技術項目毎の成人・老年、小児、母性の比較 続き

看護技術項目	成人・老年実習 n=407 小児実習 n=116 母性実習 n=134	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由						
		4人以上が可能	2~3人が可能	1人が可能	実施できない	1人が可能と実施できないの合計	対象となる患者がい	患者の安全が脅かされ	患者・家族の承諾が	患者を指導できる体	臨床が学生に許可し	その他の理由	
		%	%	%	%	%	件	件	件	件	件	件	
32 口腔ケア	成人・老年実習	59.5	27.3	7.9	3.9	11.8	28	8	0	4	1	5	
	小児実習	16.4	38.8	12.9	25.9	38.8	38	1	2	1	0	2	
	母性実習	15.7	9.7	8.2	64.9	73.1	95	0	0	1	0	2	
33 輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換	成人・老年実習	61.9	23.6	7.6	5.4	13.0	34	2	0	4	0	5	
	小児実習	37.9	24.1	6.9	26.7	33.6	34	0	1	1	0	1	
	母性実習	26.9	18.7	10.4	41.8	52.2	65	1	0	2	0	2	
34 輸液ライン等が入っている臥床患者の寝衣交換	成人・老年実習	46.7	31.2	13.8	7.1	20.9	32	31	3	14	8	5	
	小児実習	30.2	20.7	10.3	31.9	42.2	27	15	3	2	5	4	
	母性実習	19.4	32.8	14.9	30.6	45.5	49	5	1	5	3	2	
<6>呼吸・循環を整える技術													
35 酸素吸入療法	成人・老年実習	37.3	31.9	10.6	18.4	29.0	45	25	3	7	39	12	
	小児実習	17.2	34.5	20.7	20.7	41.4	29	8	2	2	11	3	
	母性実習	9.0	17.2	12.7	59.7	72.4	84	3	0	0	12	4	
36 気道内加湿	成人・老年実習	20.9	20.1	16.7	37.1	53.8	129	29	6	15	43	16	
	小児実習	21.6	21.6	15.5	33.6	49.1	36	11	3	1	7	4	
	母性実習	3.0	5.2	4.5	85.1	89.6	113	1	0	0	8	2	
37 患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法	成人・老年実習	59.0	31.2	6.4	2.0	8.4	21	2	0	1	1	3	
	小児実習	50.9	38.8	6.0	1.7	7.7	6	1	0	0	0	0	
	母性実習	39.6	26.9	14.9	16.4	31.3	39	0	0	0	0	4	
38 口腔内・鼻腔内吸引	成人・老年実習	14.0	12.3	20.1	51.4	71.5	84	103	24	22	116	23	
	小児実習	6.9	13.8	18.1	57.8	75.9	24	37	16	9	29	6	
	母性実習	2.2	1.5	3.0	89.6	92.6	106	11	3	1	20	5	
39 気管内吸引	成人・老年実習	4.9	5.2	12.5	74.9	87.4	118	134	28	27	144	24	
	小児実習	1.7	2.6	5.2	87.9	93.1	46	42	16	6	40	6	
	母性実習	0.7	0.0	0.7	95.5	96.2	115	12	3	0	19	5	
40 体位ドレナージ	成人・老年実習	16.0	19.2	18.2	43.2	61.4	172	30	6	18	33	13	
	小児実習	4.3	13.8	14.7	60.3	75.0	64	11	5	6	9	4	
	母性実習	0.7	0.7	4.5	90.3	94.8	121	6	2	1	6	1	
41 酸素ボンベの操作	成人・老年実習	27.8	20.9	16.2	32.4	48.6	82	38	7	14	63	16	
	小児実習	6.9	16.4	14.7	57.8	72.5	48	14	1	3	15	7	
	母性実習	11.2	9.7	6.7	70.9	77.6	82	7	0	2	13	3	
42 人工呼吸器装着中の患者の観察	成人・老年実習	8.8	5.9	17.4	64.6	82.0	210	77	16	27	53	27	
	小児実習	6.9	7.8	11.2	69.8	81.0	67	27	10	7	14	5	
	母性実習	0.7	0.0	2.2	93.3	95.5	128	2	2	2	2	1	
43 低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察	成人・老年実習	9.8	11.3	29.0	46.9	75.9	242	22	4	15	22	17	
	小児実習	3.4	1.7	6.9	82.8	89.7	94	12	3	3	2	2	
	母性実習	0.7	0.7	3.0	92.5	95.5	127	2	2	1	2	1	
44 末梢循環を促進する援助(部分浴・電法・マッサージ)	成人・老年実習	47.7	32.9	13.5	4.2	17.7	45	5	0	5	3	3	
	小児実習	20.7	22.4	19.8	31.9	51.7	50	2	3	1	0	2	
	母性実習	29.9	25.4	7.5	35.8	43.3	53	0	1	2	0	3	
<7>創傷管理技術													
45 褥創予防のためのケア	成人・老年実習	50.9	29.2	13.8	4.7	18.5	44	8	2	9	8	8	
	小児実習	12.9	20.7	13.8	49.1	62.9	65	0	1	2	2	4	
	母性実習	10.4	14.2	11.9	61.9	73.8	95	0	1	1	1	2	
46 包帯法	成人・老年実習	16.7	11.5	12.0	57.7	69.7	264	2	0	4	7	7	
	小児実習	7.8	7.8	21.6	58.6	80.2	82	1	1	2	4	4	
	母性実習	1.5	1.5	4.5	89.6	94.1	123	1	1	2	0	1	
47 創傷処置のための無菌操作(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	成人・老年実習	30.7	14.0	16.0	37.1	53.1	105	44	9	19	59	23	
	小児実習	2.6	11.2	16.4	64.7	81.1	70	14	4	3	13	5	
	母性実習	12.7	9.7	7.5	67.9	75.4	84	6	3	4	11	5	



表VI-6 病院調査 技術項目毎の成人・老年、小児、母性の比較 続き

看護技術項目	成人・老年実習 n=407 小児実習 n=116 母性実習 n=134	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由						
		4人以上が可能 %	2~3人が可能 %	1人が可能 %	実施できない %	1人が可能と実施できないの合計 %	対象となる患者がない 件	患者の安全が脅かされる 件	患者・家族の承諾が得られない 件	制が十分ではない 件	学生を指導できる体 件	臨床が学生に許可し ない 件	その他の理由 件
48 患者の創傷の観察	成人・老年実習	45.0	21.9	16.7	14.5	31.2	98	5	2	5	4	8	
	小児実習	11.2	23.3	28.4	33.6	62.0	61	2	0	4	1	3	
	母性実習	38.1	32.1	14.2	14.2	28.4	33	0	2	2	1	2	
＜8＞与薬の技術													
49 経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)服薬後の観察	成人・老年実習	53.1	24.8	8.1	12.0	20.1	44	11	0	4	12	7	
	小児実習	48.3	28.4	6.0	13.8	19.8	14	2	1	1	4	2	
	母性実習	42.5	17.2	3.0	35.8	38.8	46	2	0	0	2	1	
50 経皮・外用薬の投与前後の観察	成人・老年実習	40.5	31.2	15.5	10.1	25.6	64	6	3	4	9	6	
	小児実習	28.4	21.6	19.0	27.6	46.6	43	1	1	2	2	4	
	母性実習	26.9	12.7	12.7	46.3	59.0	73	1	0	0	2	1	
51 経皮・外用薬の与薬	成人・老年実習	27.8	24.6	15.7	28.5	44.2	65	26	6	14	66	10	
	小児実習	19.0	19.8	19.8	36.2	56.0	43	7	2	2	16	4	
	母性実習	13.4	9.0	11.2	63.4	74.6	76	7	1	1	20	2	
52 直腸内与薬の投与前後の観察	成人・老年実習	28.0	24.8	18.4	25.6	44.0	122	23	10	10	27	12	
	小児実習	22.4	31.9	21.6	20.7	42.3	33	5	2	5	4	2	
	母性実習	14.9	17.9	19.4	45.5	64.9	73	2	0	1	8	3	
53 直腸内与薬	成人・老年実習	9.8	15.5	15.2	56.5	71.7	104	72	21	16	124	19	
	小児実習	10.3	12.9	16.4	53.4	69.8	33	18	10	3	31	5	
	母性実習	5.2	8.2	17.2	66.4	83.6	79	12	2	1	30	3	
54 点滴静脈内注射をうけている患者の観察	成人・老年実習	56.3	29.5	8.4	4.2	12.6	14	17	2	8	9	7	
	小児実習	57.8	28.4	2.6	6.0	8.6	2	4	2	3	2	1	
	母性実習	44.0	23.9	15.7	14.9	30.6	32	4	0	1	4	5	
55 中心静脈内栄養をうけている患者の観察	成人・老年実習	38.1	29.0	17.7	13.8	31.5	79	14	2	9	14	15	
	小児実習	19.0	12.9	12.9	51.7	64.6	62	7	3	2	3	1	
	母性実習	6.0	3.0	5.2	83.6	88.8	115	0	0	1	5	3	
56 点滴静脈内注射の輸液の管理	成人・老年実習	33.7	22.1	8.6	32.4	41.0	20	69	13	20	86	16	
	小児実習	38.8	24.1	3.4	28.4	31.8	4	16	4	3	19	2	
	母性実習	24.6	18.7	11.2	42.5	53.7	45	11	3	3	24	3	
57 皮下注射	成人・老年実習	6.1	5.4	9.8	76.2	86.0	84	95	31	20	194	42	
	小児実習	1.7	6.0	4.3	85.3	89.6	53	31	15	7	54	3	
	母性実習	1.5	5.2	5.2	85.8	91.0	67	21	12	2	51	7	
58 筋肉内注射	成人・老年実習	3.4	3.9	5.7	85.0	90.7	53	128	46	30	225	46	
	小児実習	0.0	0.9	2.6	94.0	96.6	47	33	15	9	69	6	
	母性実習	3.7	5.2	3.7	84.3	88.0	42	29	12	4	71	8	
59 静脈内注射	成人・老年実習	2.9	2.0	1.7	91.6	93.3	28	140	50	30	257	52	
	小児実習	1.7	0.9	1.7	93.1	94.8	25	40	15	8	79	9	
	母性実習	3.0	2.2	2.2	89.6	91.8	34	33	13	5	78	8	
60 点滴静脈内注射	成人・老年実習	3.2	2.9	1.5	90.4	91.9	19	140	50	31	255	52	
	小児実習	2.6	2.6	2.6	89.7	92.3	15	40	14	9	79	8	
	母性実習	5.2	2.2	2.2	85.8	88.0	28	34	12	6	77	8	
61 輸液ポンプの操作	成人・老年実習	8.6	8.1	8.1	71.5	79.6	45	119	27	25	201	30	
	小児実習	16.4	14.7	6.0	59.5	65.5	6	35	7	6	51	3	
	母性実習	11.9	5.2	3.7	75.4	79.1	26	36	5	7	57	4	
62 抗生物質を投与されている患者の観察	成人・老年実習	44.7	32.7	11.5	8.6	20.1	33	14	2	9	20	8	
	小児実習	49.1	38.8	4.3	6.0	10.3	1	3	1	3	5	0	
	母性実習	37.3	26.1	14.2	18.7	32.9	31	3	1	2	6	6	
63 インシュリン製剤の投与	成人・老年実習	6.6	6.6	8.6	77.1	85.7	45	116	31	19	211	39	
	小児実習	0.0	0.0	6.9	91.4	98.3	64	24	9	5	46	4	
	母性実習	2.2	1.5	6.0	86.6	92.6	74	27	8	2	46	3	
64 インシュリン製剤を投与されている患者の観察	成人・老年実習	35.4	28.7	23.1	11.3	34.4	94	14	1	6	13	8	
	小児実習	14.7	6.0	19.0	56.9	75.9	79	2	1	1	3	1	
	母性実習	11.9	9.7	14.2	61.9	76.1	87	6	2	2	7	4	

表VI-6 病院調査 技術項目毎の成人・老年、小児、母性の比較 続き

看護技術項目	成人・老年実習 n=407 小児実習 n=116 母性実習 n=134	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由						
		4人以上が可能 %	2〜3人が可能 %	1人が可能 %	実施できない %	1人が可能と実施できないの合計 %	ない対象となる患者がい 件	施る内容なので学生に実 施させられない 件	患者の安全が脅かされ 得られにくい 件	患者・家族の承諾が 制が十分ではない 件	学生を指導できない体 件	臨場が学生に許可し ていない 件	その他の理由 件
65 麻薬を投与されている患者の観察	成人・老年実習	23.8	22.4	16.7	35.4	52.1	157	17	7	9	14	18	
	小児実習	7.8	1.7	9.5	77.6	87.1	91	5	5	2	6	3	
	母性実習	6.7	10.4	6.0	73.9	79.9	100	6	2	2	6	3	
66 輸血前・中・後の観察	成人・老年実習	15.0	15.7	28.7	38.1	66.8	212	18	7	13	19	18	
	小児実習	10.3	12.9	18.1	55.2	73.3	72	9	1	3	6	0	
	母性実習	8.2	6.0	15.7	66.4	82.1	93	6	0	1	4	4	
<9>救命救急処置技術													
67 意識状態の観察	成人・老年実習	49.4	21.9	14.5	12.5	27.0	69	10	4	10	8	10	
	小児実習	28.4	16.4	17.2	33.6	50.8	49	5	1	1	1	3	
	母性実習	20.9	9.0	9.0	58.2	67.2	86	2	0	0	1	1	
<10>症状・生体機能管理技術													
68 バイタルサインの測定	成人・老年実習	91.6	4.9	2.2	0.0	2.2	0	2	1	2	0	1	
	小児実習	87.1	10.3	0.9	0.9	1.8	0	0	0	0	0	0	
	母性実習	88.8	6.7	2.2	0.0	2.2	1	0	0	0	0	0	
69 身体計測	成人・老年実習	77.1	12.8	5.2	3.7	8.9	24	1	0	2	0	5	
	小児実習	74.1	19.0	2.6	2.6	5.2	4	0	0	0	0	1	
	母性実習	73.1	12.7	2.2	10.4	12.6	14	0	0	1	0	1	
70 検査目的に合わせた尿検体の取り扱い	成人・老年実習	27.3	18.2	12.0	40.5	52.5	94	15	1	15	68	34	
	小児実習	37.1	21.6	16.4	23.3	39.7	23	2	1	4	12	1	
	母性実習	36.6	13.4	10.4	36.6	47.0	41	3	0	2	10	8	
71 静脈血採血	成人・老年実習	7.1	3.4	5.4	82.8	88.2	36	110	48	31	219	50	
	小児実習	4.3	1.7	0.9	89.7	90.6	13	32	18	8	74	10	
	母性実習	7.5	5.2	8.2	73.9	82.1	33	24	10	4	55	16	
72 簡易血糖測定	成人・老年実習	19.2	17.2	15.5	46.4	61.9	62	52	21	17	133	23	
	小児実習	1.7	3.4	12.9	76.7	89.6	53	15	9	5	40	5	
	母性実習	6.7	4.5	8.2	76.9	85.1	62	13	3	3	41	9	
73 検査の目的に合わせた血液検体の取り扱い	成人・老年実習	14.7	12.0	10.8	60.2	71.0	63	46	6	32	138	44	
	小児実習	19.0	10.3	11.2	56.0	67.2	18	15	2	14	34	8	
	母性実習	16.4	9.7	7.5	62.7	70.2	43	9	1	5	35	9	
74 正確な検査が行えるための患者の準備	成人・老年実習	30.0	32.4	14.0	20.1	34.1	46	19	2	24	37	17	
	小児実習	25.9	31.9	16.4	19.0	35.4	18	8	2	10	9	4	
	母性実習	26.1	13.4	11.9	43.3	55.2	59	2	2	2	9	2	
75 身体侵襲を伴う検査(内視鏡、穿刺など)の介助	成人・老年実習	6.9	10.3	13.0	67.3	80.3	99	91	22	39	126	44	
	小児実習	0.9	10.3	14.7	71.6	86.3	49	33	13	9	32	6	
	母性実習	0.7	3.7	7.5	83.6	91.1	109	15	4	5	15	3	
76 身体侵襲を伴う検査後の安静保持の援助	成人・老年実習	20.4	30.2	24.8	22.4	47.2	112	29	6	21	29	7	
	小児実習	14.7	23.3	25.9	33.6	59.5	50	9	5	4	3	6	
	母性実習	9.7	5.2	9.7	70.9	80.6	102	7	1	1	5	1	
77 身体侵襲を伴う検査前、中、後の患者の観察	成人・老年実習	21.9	30.2	24.6	20.9	45.5	108	29	7	22	26	11	
	小児実習	19.8	20.7	26.7	29.3	56.0	47	11	2	5	4	5	
	母性実習	10.4	4.5	11.2	69.4	80.6	101	9	0	3	3	1	
<11>感染予防の技術													
78 スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	成人・老年実習	80.6	10.1	2.7	4.9	7.6	11	2	1	10	3	1	
	小児実習	81.9	10.3	2.6	4.3	6.9	2	0	0	0	4	1	
	母性実習	83.6	5.2	3.0	6.0	9.0	8	1	0	1	0	1	
79 防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着	成人・老年実習	47.7	12.3	8.8	30.0	38.8	105	2	0	17	33	17	
	小児実習	42.2	15.5	7.8	31.9	39.7	31	1	0	1	9	5	
	母性実習	40.3	11.2	3.0	42.5	45.5	54	2	0	1	2	2	

表VI-6 病院調査 技術項目毎の成人・老年、小児、母性の比較 続き

看護技術項目	成人・老年実習 n=407 小児実習 n=116 母性実習 n=134	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由					
		4人以上が可能 %	2〜3人が可能 %	1人が可能 %	実施できない %	1人が可能と実施できないの合計 %	ない 件	対象となる患者がい 施させられない 患者の安全が脅かされ る内容なので学生に実 施されにくい 件	患者・家族の承諾が 得られない 件	学生を指導できる体 制が十分ではない 件	臨床が学生に許可し ていない 件	その他の理由 件
80 洗浄・消毒・滅菌の方法の選択	成人・老年実習	37.6	18.2	7.6	33.4	41.0	43	19	2	40	46	25
	小児実習	31.0	21.6	6.9	36.2	43.1	16	6	0	6	15	9
	母性実習	35.8	7.5	3.0	47.8	50.8	44	4	0	6	15	7
81 感染性廃棄物の取り扱い	成人・老年実習	61.9	12.3	5.2	18.7	23.9	22	8	1	19	41	17
	小児実習	51.7	17.2	3.4	24.1	27.5	10	4	0	3	13	11
	母性実習	53.7	8.7	3.0	32.1	35.1	25	4	0	1	16	6
82 針刺し事故の防止策	成人・老年実習	50.6	10.1	4.2	31.9	36.1	30	13	0	25	61	39
	小児実習	41.4	11.2	2.6	37.9	40.5	17	5	0	3	14	15
	母性実習	44.8	5.2	3.7	42.5	46.2	31	4	0	7	16	10
<12> 安楽管理の技術												
83 患者の機能や行動特性に合わせた転倒・転落・外傷予防	成人・老年実習	59.5	24.1	8.8	5.7	14.5	19	11	1	12	10	9
	小児実習	65.5	23.3	2.6	5.2	7.8	3	1	0	0	2	1
	母性実習	47.0	11.9	6.7	32.1	38.8	42	4	0	0	3	1
84 誤薬防止の手順にそった与薬	成人・老年実習	29.5	13.0	7.9	47.7	55.6	23	58	7	21	127	25
	小児実習	33.6	14.7	6.0	42.2	48.2	9	18	2	2	29	6
	母性実習	23.1	3.7	4.5	62.7	67.2	49	14	2	4	32	6
85 患者を誤認しないための防止策	成人・老年実習	66.6	15.2	3.9	11.8	15.7	13	6	1	14	19	10
	小児実習	65.5	17.2	1.7	11.2	12.9	1	2	0	0	6	3
	母性実習	64.9	7.5	2.2	20.9	23.1	20	4	1	1	7	5
86 放射線暴露の防止	成人・老年実習	32.9	16.7	7.9	40.0	47.9	119	6	0	16	41	14
	小児実習	26.7	14.7	10.3	46.6	56.9	52	3	1	2	9	4
	母性実習	12.7	5.2	6.0	72.4	78.4	96	4	1	4	7	4

上の技術項目は「バイタルサインの測定」「身体計測」「スタンダード・プリコーションに基づく手洗い」「感染性廃棄物の取り扱い」「患者の機能や行動特性に合わせた転倒・転落・外傷予防」「患者を誤認しないための防止策」の6項目であった。それ以外に「臥床患者のリネン交換」「おむつ交換」「患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法」「経口薬服薬後の観察」「点滴静脈内注射をうけている患者の観察」「抗生物質を投与されている患者の観察」「防護用具の装着」「針刺し事故の防止策」の8項目ほどの実習においても同程度の体験ができる項目であった。

## (2)成人・老年実習

### ①実施可能性が高い技術項目と低い技術項目

『4人以上が可能』の比率が高いものを実施可能性が高い項目、『1人が実施可能』『実施できない』を合計したものの比率が高いものを実施可能性が低い項目として分類した。『4人以上が可能』が50%以上の項目は21項目であった(表VI-7)。「バイタルサインの測定」が最も実施可能性が高く91.6%、「スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い」が80.6%、「身体計測」77.1%「臥床患者のリネン交換」71.3%であった。それ以下は60%代であった。『1人が実施可能』『実施できない』を合計したものが50%以上の項目は30項目であり、実施可能性が低い割合が80%以上の項目は13項目であった(表VI-8)。実施可能な項目よりも実施できない項目が多く、割合も高かった。

『4人以上が可能』『2～3人が可能』『1人が実施可能』『実施できない』の回答率をグラフにしたものを<1>環境調整技術(図VI-3)、<2>食事の援助技術(図VI-4)、<3>排泄援助技術(図VI-5)、<4>活動・休息援助技術(図VI-6)、<5>清潔・衣生活援助技術(図VI-7)、<6>呼吸・循環

を整える技術(図VI-8)、<7>創傷管理技術(図VI-9)、<8>与薬の技術(図VI-10)、<9>救命救急処置技術(図VI-11)、<10>症状・生体機能管理技術(図VI-12)、<11>感染予防の技術(図VI-13)、<12>安全管理の技術(図VI-14)に分けて項目ごとに比較した。

### ・実施可能性が高い技術項目

実施可能性が高い項目は<1>環境調整技術1項目「臥床患者のリネン交換」71.3%、<4>活動・休息援助技術は「臥床患者の体位変換」61.2%、他3項目、<5>清潔・衣生活援助技術は、「患者の状態に合わせた足浴・手浴」68.1%、「陰部の清潔保持」65.4%、「臥床患者の清拭」67.3%、他2項目、<6>呼吸・循環を整える技術「患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法」59.0%、<7>創傷管理技術「褥創予防のためのケア」50.9%、<8>与薬の技術「経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)服薬後の観察」53.1%、「点滴静脈内注射をうけている患者の観察」56.3%、<10>症状・生体機能管理技術「バイタルサインの測定」91.6%、「身体計測」77.1%、<11>感染予防の技術「スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い」80.6%、他2項目<12>安全管理の技術「患者の機能や行動特性に合わせた転倒・転落・外傷予防」59.5%、「患者を誤認しないための防止策」66.6%であった。活動・休息援助技術、清潔・衣生活援助技術、感染予防の技術の項目数が多く、生活行動援助と基本的な看護技術が実施可能な項目であることが示された。

### ・実施可能性が低い技術項目

一方、実施可能性が低い項目は、<2>食事の援助技術「経鼻胃チューブの挿入・確認」80.1%、「患者への経鼻胃チューブからの流動食の注入」72.5%、<3>排泄援助技術「排便」85.2%、「導尿または膀胱留置カテーテルの挿入」86.7%、

表VI-7 病院調査 臨地実習で実施可能性の高い技術項目 成人・老年

n=407

	番号	看護技術項目	A. 学生が実施可能な人数				
			4人以上が可能 %	2 5 3 人が可能 %	1 人が可能 %	実施できない %	1 人が可能と 実施でき ないの 合計と 実施で %
1	68	バイタルサインの測定	91.6	4.9	2.2	0.0	2.2
2	78	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	80.6	10.1	2.7	4.9	7.6
3	69	身体計測	77.1	12.8	5.2	3.7	8.9
4	1	臥床患者のリネン交換	71.3	18.2	6.6	2.9	9.5
5	18	車椅子移送	69.3	24.1	4.9	1.0	5.9
6	27	患者の状態に合わせた足浴・手浴	68.1	25.6	4.2	0.2	4.4
7	30	臥床患者の清拭	67.3	22.9	7.1	0.7	7.8
8	85	患者を誤認しないための防止策	66.6	15.2	3.9	11.8	15.7
9	28	陰部の清潔保持	65.4	25.6	6.1	1.0	7.1
10	19	歩行・移動介助	64.9	27.0	6.1	1.2	7.3
11	33	輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換	61.9	23.6	7.6	5.4	13
12	81	感染性廃棄物の取り扱い	61.9	12.3	5.2	18.7	23.9
13	16	臥床患者の体位変換	61.2	26.5	9.8	1.7	11.5
14	32	口腔ケア	59.5	27.3	7.9	3.9	11.8
15	83	患者の機能や行動特性に合わせた転倒・転落・外傷予防	59.5	24.1	8.8	5.7	14.5
16	37	患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法	59.0	31.2	6.4	2.0	8.4
17	54	点滴静脈内注射をうけている患者の観察	56.3	29.5	8.4	4.2	12.6
18	17	ベッドから車椅子への移乗	54.8	33.7	7.6	2.7	10.3
19	49	経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)服薬後の観察	53.1	24.8	8.1	12.0	20.1
20	45	褥創予防のためのケア	50.9	29.2	13.8	4.7	18.5
21	82	針刺し事故の防止策	50.6	10.1	4.2	31.9	36.1
22	67	意識状態の観察	49.4	21.9	14.5	12.5	27
23	9	おむつ交換	49.1	30.0	13.3	7.1	20.4
24	21	目的に応じた安静保持の援助	48.6	34.2	9.3	6.9	16.2
25	44	末梢循環を促進する援助(部分浴・罨法・マッサージ)	47.7	32.9	13.5	4.2	17.7
26	79	防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着	47.7	12.3	8.8	30.0	38.8
27	24	ストレッチャーでの移送	46.7	24.1	15.7	12.0	27.7
28	34	輸液ライン等が入っている臥床患者の寝衣交換	46.7	31.2	13.8	7.1	20.9
29	23	ベッドからストレッチャーへの移乗	45.5	26.5	16.0	11.5	27.5

表VI-7 病院調査 臨地実習で実施可能性の高い技術項目 成人・老年 続き

	番号	看護技術項目	A. 学生が実施可能な人数				
			4人以上が可能	2 5 3人が可能	1人が可能	実施できない	1人が可能と実施できないの合計
30	48	患者の創傷の観察	45.0	21.9	16.7	14.5	31.2
31	62	抗生物質を投与されている患者の観察	44.7	32.7	11.5	8.6	20.1
32	31	臥床患者の洗髪	44.2	35.6	13.0	5.9	18.9
33	7	患者に合わせた便器・尿器を選択した排泄援助	43.5	34.4	15	6.6	21.6
34	13	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の管理	41.0	32.9	15.7	9.1	24.8
35	10	失禁をしている患者のケア	40.5	29.5	16.0	12.8	28.8
36	50	経皮・外用薬の投与前後の観察	40.5	31.2	15.5	10.1	25.6
37	26	入浴の介助	39.8	34.6	18.2	5.9	24.1
38	22	体動制限による苦痛の緩和	38.8	35.4	13.0	10.1	23.1
39	55	中心静脈内栄養をうけている患者の観察	38.1	29.0	17.7	13.8	31.5
40	8	ポータブルトイレでの排泄援助	37.6	38.1	17.4	6.6	24
41	80	洗浄・消毒・滅菌の方法の選択	37.6	18.2	7.6	33.4	41
42	35	酸素吸入療法	37.3	31.9	10.6	18.4	29
43	64	インシュリン製剤を投与されている患者の観察	35.4	28.7	23.1	11.3	34.4
44	20	廃用性症候群予防のための自動・他動運動	33.7	31.2	17.2	17.4	34.6
45	56	点滴静脈内注射の輸液の管理	33.7	22.1	8.6	32.4	41
46	2	患者の状態に合わせた食事介助	32.9	39.1	16.7	10.1	26.8
47	86	放射線暴露の防止	32.9	16.7	7.9	40.0	47.9
48	47	創傷処置のための無菌操作(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	30.7	14.0	16.0	37.1	53.1
49	74	正確な検査が行えるための患者の準備	30.0	32.4	14.0	20.1	34.1
50	84	誤薬防止の手順にそった与薬	29.5	13.0	7.9	47.7	55.6
51	52	直腸内与薬の投与前後の観察	28.0	24.8	18.4	25.6	44
52	41	酸素ポンベの操作	27.8	20.9	16.2	32.4	48.6
53	51	経皮・外用薬の与薬	27.8	24.6	15.7	28.5	44.2
54	3	患者の疾患に応じた食事内容の指導	27.3	39.1	18.2	13	31.2
55	70	検査目的に合わせた尿検体の取り扱い	27.3	18.2	12.0	40.5	52.5
56	25	関節可動域訓練	24.3	22.1	20.4	31.9	52.3
57	65	麻薬を投与されている患者の観察	23.8	22.4	16.7	35.4	52.1

表VI-7 病院調査 臨地実習で実施可能性の高い技術項目 成人・老年 続き

	番号	看護技術項目	A. 学生が実施可能な人数				
			4人以上が可能	2～3人が可能	1人が可能	実施できない	1人が可能と合計と実施でき
58	5	経管栄養法を受けている患者の観察	23.1	26.5	25.3	23.3	48.6
59	77	身体侵襲を伴う検査前、中、後の患者の観察	21.9	30.2	24.6	20.9	45.5
60	36	気道内加湿	20.9	20.1	16.7	37.1	53.8
61	76	身体侵襲を伴う検査後の安静保持の援助	20.4	30.2	24.8	22.4	47.2
62	72	簡易血糖測定	19.2	17.2	15.5	46.4	61.9
63	46	包帯法	16.7	11.5	12.0	57.7	69.7
64	40	体位ドレナージ	16.0	19.2	18.2	43.2	61.4
65	66	輸血前・中・後の観察	15.0	15.7	28.7	38.1	66.8
66	73	検査の目的に合わせた血液検体の取り扱い	14.7	12.0	10.8	60.2	71
67	38	口腔内・鼻腔内吸引	14.0	12.3	20.1	51.4	71.5
68	6	患者への経鼻胃チューブからの流動食の注入	12.8	13.8	18.9	53.6	72.5
69	43	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察	9.8	11.3	29.0	46.9	75.9
70	53	直腸内与薬	9.8	15.5	15.2	56.5	71.7
71	42	人工呼吸器装着中の患者の観察	8.8	5.9	17.4	64.6	82
72	61	輸液ポンプの操作	8.6	8.1	8.1	71.5	79.6
73	14	グリセリン浣腸	8.4	15.2	21.1	54.8	75.9
74	71	静脈血採血	7.1	3.4	5.4	82.8	88.2
75	15	ストーマ造設部の管理、パウチ交換	6.9	10.6	16.2	64.9	81.1
76	75	身体侵襲を伴う検査(内視鏡、穿刺など)の介助	6.9	10.3	13.0	67.3	80.3
77	63	インシュリン製剤の投与	6.6	6.6	8.6	77.1	85.7
78	4	経鼻胃チューブの挿入・確認	6.4	10.8	15.5	64.6	80.1
79	57	皮下注射	6.1	5.4	9.8	76.2	86
80	12	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	5.4	7.4	15.2	71.5	86.7
81	39	気管内吸引	4.9	5.2	12.5	74.9	87.4
82	11	摘便	4.4	9.6	17.9	67.3	85.2
83	58	筋肉内注射	3.4	3.9	5.7	85.0	90.7
84	60	点滴静脈内注射	3.2	2.9	1.5	90.4	91.9
85	59	静脈内注射	2.9	2.0	1.7	91.6	93.3
86	29	乳幼児の沐浴	1.2	1.2	1.5	89.4	90.9

表VI-8 病院調査 臨地実習で実施可能性の低い技術項目 成人・老年

		理由の数が多いもの n=407											
番号	看護技術項目	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由						
		4人以上が可能 %	2~3人が可能 %	1人が可能 %	実施できない %	1人が可能と実施できないの合計 %	対象となる患者がい ない 件	患者の安全が脅かされ る内容なので学生に実 施させられない 件	患者・家族の承諾が 得られにくい 件	制学生を指導できる体 制が十分ではない 件	臨床が学生に許可し ていない 件	その他の理由 件	
1	59	静脈内注射	2.9	2.0	1.7	91.6	93.3	28	140	50	30	257	52
2	60	点滴静脈内注射	3.2	2.9	1.5	90.4	91.9	19	140	50	31	255	52
3	58	筋肉内注射	3.4	3.9	5.7	85.0	90.7	53	128	46	30	225	46
4	71	静脈血採血	7.1	3.4	5.4	82.8	88.2	36	110	48	31	219	50
5	39	気管内吸引	4.9	5.2	12.5	74.9	87.4	118	134	28	27	144	24
6	12	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	5.4	7.4	15.2	71.5	86.7	90	116	47	21	155	38
7	57	皮下注射	6.1	5.4	9.8	76.2	86	84	95	31	20	194	42
8	63	インシュリン製剤の投与	6.6	6.6	8.6	77.1	85.7	45	116	31	19	211	39
9	11	排便	4.4	9.6	17.9	67.3	85.2	148	88	35	22	113	27
10	42	人工呼吸器装着中の患者の観察	8.8	5.9	17.4	64.6	82	210	77	16	27	53	27
11	15	ストーマ造設部の管理、パウチ交換	6.9	10.6	16.2	64.9	81.1	245	26	13	17	39	29
12	75	身体侵襲を伴う検査(内視鏡、穿刺など)の介助	6.9	10.3	13.0	67.3	80.3	99	91	22	39	126	44
13	4	経鼻胃チューブの挿入・確認	6.4	10.8	15.5	64.6	80.1	131	91	19	25	109	59
14	61	輸液ポンプの操作	8.6	8.1	8.1	71.5	79.6	45	119	27	25	201	30
15	14	グリセリン浣腸	8.4	15.2	21.1	54.8	75.9	104	83	29	24	111	35
16	43	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察	9.8	11.3	29.0	46.9	75.9	242	22	4	15	22	17
17	6	患者への経鼻胃チューブからの流動食の注入	12.8	13.8	18.9	53.6	72.5	159	57	9	16	82	35
18	53	直腸内与薬	9.8	15.5	15.2	56.5	71.7	104	72	21	16	124	19
19	38	口腔内・鼻腔内吸引	14.0	12.3	20.1	51.4	71.5	84	103	24	22	116	23
20	73	検査の目的に合わせた血液検体の取り扱い	14.7	12.0	10.8	60.2	71	63	46	6	32	138	44
21	46	包帯法	16.7	11.5	12.0	57.7	69.7	264	2	0	4	7	7
22	66	輸血前・中・後の観察	15.0	15.7	28.7	38.1	66.8	212	18	7	13	19	18
23	72	簡易血糖測定	19.2	17.2	15.5	46.4	61.9	62	52	21	17	133	23
24	40	体位ドレナージ	16.0	19.2	18.2	43.2	61.4	172	30	6	18	33	13
25	84	誤薬防止の手順にそった与薬	29.5	13.0	7.9	47.7	55.6	23	58	7	21	127	25
26	36	気道内加湿	20.9	20.1	16.7	37.1	53.8	129	29	6	15	43	16
27	47	創傷処置のための無菌操作(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	30.7	14.0	16.0	37.1	53.1	105	44	9	19	59	23
28	70	検査目的に合わせた尿検体の取り扱い	27.3	18.2	12.0	40.5	52.5	94	15	1	15	68	34
29	25	関節可動域訓練	24.3	22.1	20.4	31.9	52.3	139	20	0	22	23	10

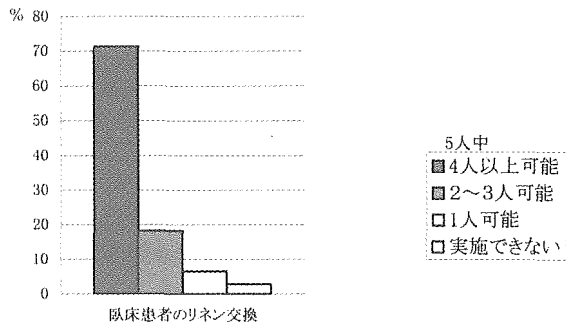


表VI-8 病院調査 臨地実習で実施可能性の低い技術項目 成人・老年 続き

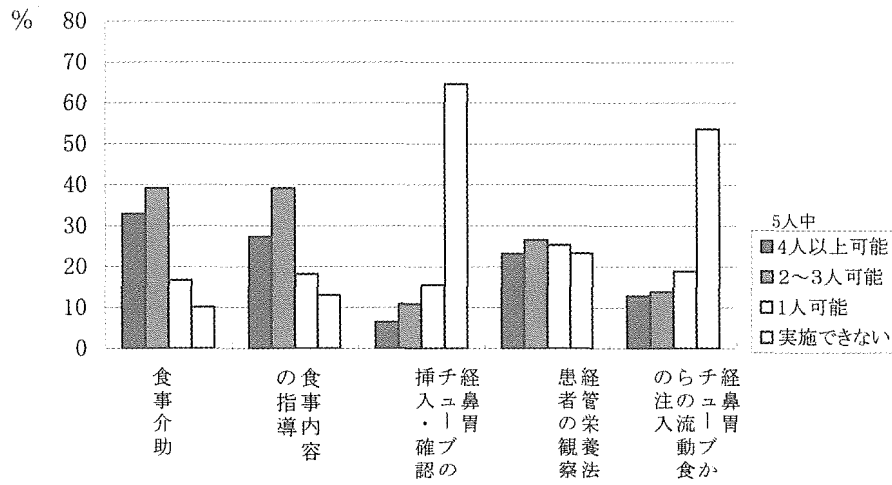
番号	看護技術項目	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由						
		4人以上が可能	2～3人が可能	1人が可能	実施できない	1人が可能と実施できないの合計	対象となる患者がい	患者の安全が脅かされる内容なので学生に実施させられない	患者・家族の承諾が得られない	学生を指導できる体制が十分ではない	臨床が学生に許可していない	その他の理由	
30	65	麻薬を投与されている患者の観察	23.8	22.4	16.7	35.4	52.1	157	17	7	9	14	18
31	5	経管栄養法を受けている患者の観察	23.1	26.5	25.3	23.3	48.6	147	14	4	14	9	17
32	41	酸素ポンベの操作	27.8	20.9	16.2	32.4	48.6	82	38	7	14	63	16
33	86	放射線暴露の防止	32.9	16.7	7.9	40.0	47.9	119	6	0	16	41	14
34	76	身体侵襲を伴う検査後の安静保持の援助	20.4	30.2	24.8	22.4	47.2	112	29	6	21	29	7
35	77	身体侵襲を伴う検査前、中、後の患者の観察	21.9	30.2	24.6	20.9	45.5	108	29	7	22	26	11
36	51	経皮・外用薬の与薬	27.8	24.6	15.7	28.5	44.2	65	26	6	14	66	10
37	52	直腸内与薬の投与前後の観察	28.0	24.8	18.4	25.6	44	122	23	10	10	27	12
38	56	点滴静脈内注射の輸液の管理	33.7	22.1	8.6	32.4	41	20	69	13	20	86	16
39	80	洗浄・消毒・滅菌の方法の選択	37.6	18.2	7.6	33.4	41	43	19	2	40	46	25
40	79	防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着	47.7	12.3	8.8	30.0	38.8	105	2	0	17	33	17
41	82	針刺し事故の防止策	50.6	10.1	4.2	31.9	36.1	30	13	0	25	61	39
42	20	廃用性症候群予防のための自動・他動運動	33.7	31.2	17.2	17.4	34.6	89	12	5	15	14	20
43	64	インシュリン製剤を投与されている患者の観察	35.4	28.7	23.1	11.3	34.4	94	14	1	6	13	8
44	74	正確な検査が行えるための患者の準備	30.0	32.4	14.0	20.1	34.1	46	19	2	24	37	17
45	55	中心静脈内栄養をうけている患者の観察	38.1	29.0	17.7	13.8	31.5	79	14	2	9	14	15
46	3	患者の疾患に応じた食事内容の指導	27.3	39.1	18.2	13	31.2	73	9	2	17	7	13
47	48	患者の創傷の観察	45.0	21.9	16.7	14.5	31.2	98	5	2	5	4	8
48	35	酸素吸入療法	37.3	31.9	10.6	18.4	29	45	25	3	7	39	12
49	10	失禁をしている患者のケア	40.5	29.5	16.0	12.8	28.8	78	6	7	6	6	15
50	24	ストレッチャーでの移送	46.7	24.1	15.7	12.0	27.7	70	11	1	6	7	17
51	23	ベッドからストレッチャーへの移乗	45.5	26.5	16.0	11.5	27.5	73	16	1	4	4	14
52	67	意識状態の観察	49.4	21.9	14.5	12.5	27	69	10	4	10	8	10
53	2	患者の状態に合わせた食事介助	32.9	39.1	16.7	10.1	26.8	82	7	2	6	1	13
54	50	経皮・外用薬の投与前後の観察	40.5	31.2	15.5	10.1	25.6	64	6	3	4	9	6
55	13	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の管理	41.0	32.9	15.7	9.1	24.8	45	15	4	8	18	12
56	26	入浴の介助	39.8	34.6	18.2	5.9	24.1	63	9	4	11	1	11
57	8	ポータブルトイレでの排泄援助	37.6	38.1	17.4	6.6	24	71	7	6	2	0	16
58	81	感染性廃棄物の取り扱い	61.9	12.3	5.2	18.7	23.9	22	8	1	19	41	17

表VI-8 病院調査 臨地実習で実施可能性の低い技術項目 成人・老年 続き

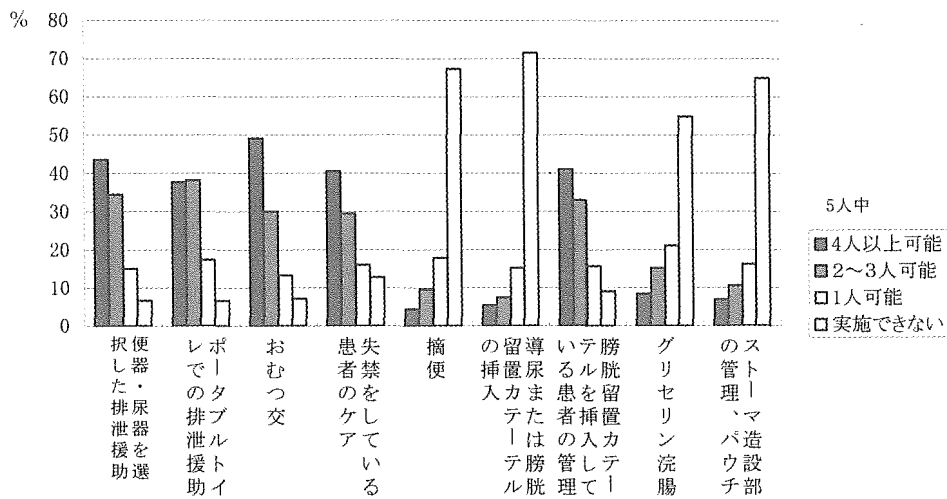
番号	看護技術項目	A. 学生が実施可能な人数					B. A. で「1人が実施可能」あるいは「実施できない」理由						
		4人以上が可能	2～3人が可能	1人が可能	実施できない	1人が可能と実施できないの合計	対象となる患者がい	患者の安全が脅かされる内容なので学生に実施させられない	患者・家族の承諾が得られない	学生を指導できる体制が十分ではない	臨床が学生に許可していない	その他の理由	
59	22	体動制限による苦痛の緩和	38.8	35.4	13.0	10.1	23.1	53	12	1	9	5	13
60	7	患者に合わせた便器・尿器を選択した排泄援助	43.5	34.4	15	6.6	21.6	60	4	10	5	0	10
61	34	輸液ライン等が入っている臥床患者の寝衣交換	46.7	31.2	13.8	7.1	20.9	32	31	3	14	8	5
62	9	おむつ交換	49.1	30.0	13.3	7.1	20.4	56	5	4	5	2	12
63	49	経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)服薬後の観察	53.1	24.8	8.1	12.0	20.1	44	11	0	4	12	7
64	62	抗生物質を投与されている患者の観察	44.7	32.7	11.5	8.6	20.1	33	14	2	9	20	8
65	31	臥床患者の洗髪	44.2	35.6	13.0	5.9	18.9	52	5	0	10	2	5
66	45	褥創予防のためのケア	50.9	29.2	13.8	4.7	18.5	44	8	2	9	8	8
67	44	末梢循環を促進する援助(部分浴・電法・マッサージ)	47.7	32.9	13.5	4.2	17.7	45	5	0	5	3	3
68	21	目的に応じた安静保持の援助	48.6	34.2	9.3	6.9	16.2	39	7	1	5	2	7
69	85	患者を誤認しないための防止策	66.6	15.2	3.9	11.8	15.7	13	6	1	14	19	10
70	83	患者の機能や行動特性に合わせた転倒・転落・外傷予防	59.5	24.1	8.8	5.7	14.5	19	11	1	12	10	9
71	33	輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換	61.9	23.6	7.6	5.4	13	34	2	0	4	0	5
72	54	点滴静脈内注射をうけている患者の観察	56.3	29.5	8.4	4.2	12.6	14	17	2	8	9	7
73	32	口腔ケア	59.5	27.3	7.9	3.9	11.8	28	8	0	4	1	5
74	16	臥床患者の体位変換	61.2	26.5	9.8	1.7	11.5	32	5	0	1	0	4
75	17	ベッドから車椅子への移乗	54.8	33.7	7.6	2.7	10.3	22	11	0	2	2	5
76	1	臥床患者のリネン交換	71.3	18.2	6.6	2.9	9.5	19	6	0	6	2	9
77	69	身体計測	77.1	12.8	5.2	3.7	8.9	24	1	0	2	0	5
78	37	患者の状態に合わせた温電法・冷電法	59.0	31.2	6.4	2.0	8.4	21	2	0	1	1	3
79	30	臥床患者の清拭	67.3	22.9	7.1	0.7	7.8	14	5	1	4	1	6
80	78	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	80.6	10.1	2.7	4.9	7.6	11	2	1	10	3	1
81	19	歩行・移動介助	64.9	27.0	6.1	1.2	7.3	17	4	0	3	0	2
82	28	陰部の清潔保持	65.4	25.6	6.1	1.0	7.1	15	1	8	2	0	5
83	18	車椅子移送	69.3	24.1	4.9	1.0	5.9	11	3	0	2	1	4
84	27	患者の状態に合わせた足浴・手浴	68.1	25.6	4.2	0.2	4.4	11	0	0	2	0	3
85	68	バイタルサインの測定	91.6	4.9	2.2	0.0	2.2	0	2	1	2	0	1



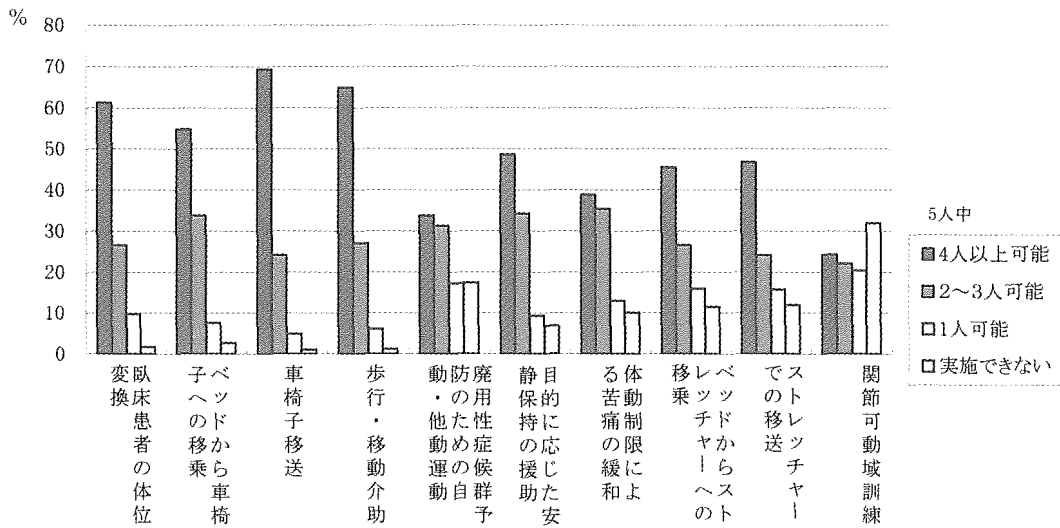
図VI-3 病院調査 成人・老年実習における実施可能性  
 (環境調整技術) n=407



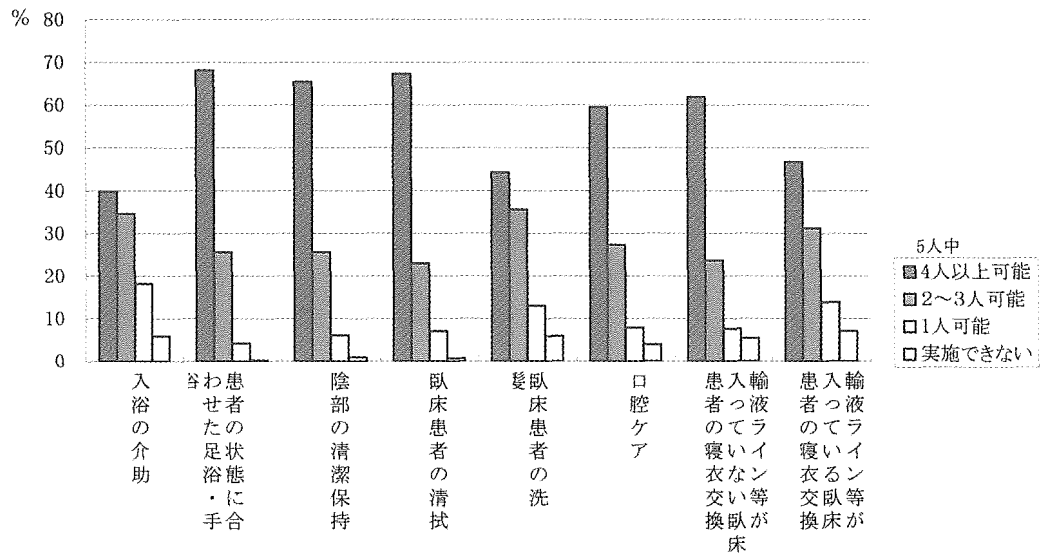
図VI-4 病院調査 成人・老年実習における実施可能性  
 (食事の援助技術) n=407



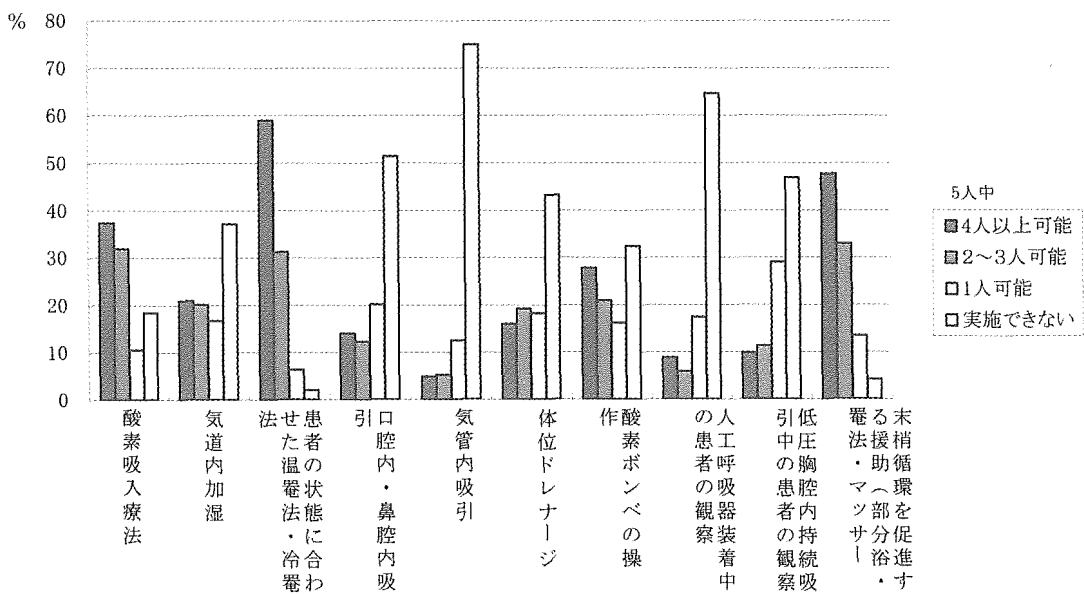
図VI-5 病院調査 成人・老年実習における実施可能性  
 (排泄援助技術) n=407



図VI-6 病院調査 成人・老年実習における実施可能性〈活動・休息援助技術〉n=407



図VI-7 病院調査 成人・老年実習における実施可能性〈清潔・衣生活援助技術〉n=407



図VI-8 病院調査 成人・老年実習における実施可能性〈呼吸・循環を整える技術〉n=407